

中野区教育委員会会議録

令和8年第16回定例会

令和8年6月19日

中野区教育委員会

令和8年第16回中野区教育委員会定例会

○日時

令和8年6月19日（金曜日）

開会 午前10時00分

閉会 午前11時23分

○場所

中野区立上鷺宮小学校 体育館

○出席委員

教育委員会教育長 田代 雅規

教育委員会委員 岡本 淳之

教育委員会委員 高野 治人

教育委員会委員 平本 紋子

教育委員会委員 伊藤亜矢子

○出席職員

教育委員会事務局次長 石崎 公一

参事（子ども家庭支援担当） 森 克久

子ども・教育政策課長 小堺 充

指導室長 井元 章二

学務課長 佐藤 貴之

学校支援担当課長 関田 勇介

子ども教育施設課長 原 太洋

かみさぎ幼稚園長 小池 友美

上鷺宮小学校長 原田 久美

北中野中学校長 尾石 智洋

○書記

教育委員会係長 網野 愛子

教育委員会係 神垣 真帆

教育委員会係 岡崎 大輔

教育委員会係 始関 友海

○会議録署名委員

教育委員会教育長 田代 雅規

教育委員会委員 平本 紋子

○傍聴者数

11人

○議事日程

1 協議事項

「体力向上の取り組みについて」

- ①体力向上の取り組みについて（指導室）
- ②運動遊びの環境と指導の工夫（かみさぎ幼稚園）
- ③上鷺地区から元気を！体力向上プロジェクト
～たくましい体と挑戦する心を育む学校経営～（上鷺宮小学校）
- ④幼・小・中連携による中学校段階の体力向上の取組（北中野中学校）

○議事経過

午前 10 時 00 分 開会

田代教育長

おはようございます。定足数に達しましたので、教育委員会第 16 回定例会を開会いたします。

なお、本日は地域での教育委員会として開催するものです。

中野区におきましては、開かれた教育行政を一層推進するために、区役所以外の場所に会場を移して開催しているもので、今回で 47 回目の開催となります。

会議の進行につきましては、通常のエ育委員会と同じように進めてまいります。

ここで傍聴の許可についてお諮りをいたします。

教育委員会の会議における傍聴の人数につきましては、中野区教育委員会傍聴規則第 3 条により、20 人以内と定められております。

本日は、傍聴を希望される方が 20 人を超えてお見えになる場合がありますので、同規則第 3 条ただし書の規定により、20 人を超えて傍聴することを認めたいと思いますが、ご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

田代教育長

ご異議ありませんので、20 人を超えて会議を傍聴することを認めることに決定いたしました。

続きまして、ここでお諮りをいたします。

本日は、JCOMマーケティング株式会社から、取材のため、教育委員会の会議を撮影したい旨の申し出がありました。

会場を撮影する場合には、教育委員会の承認を受ける必要があります。これを承認したいと思いますが、ご異議ございませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

田代教育長

ご異議ございませんので、会議の撮影を承認することに決定しました。

なお、撮影に当たりましては、会議に差し支えないように行っていただきますよう、お願いいたします。

また、傍聴の方を撮影される場合には、個別に了解を得てから行っていただきますよう、

お願いいたします。

それでは議事に入ります。

本日の会議録署名委員は平本委員にお願いいたします。

本日の議事は、お手元に配付の議事日程のとおりです。

それでは日程に入ります。

冒頭でご説明しましたが、本日は地域での教育委員会として、協議事項を「体力向上の取り組みについて」として、テーマに関連して、かみさぎ幼稚園の園長先生、上鷲宮小学校、北中野中学校の各校長先生よりお話を伺う予定でございます。

また、協議事項の終了後、会議を一旦休憩し、協議テーマに関して、傍聴の方のご意見をいただく時間を設けたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

<協議事項>

田代教育長

それでは、協議事項「体力向上の取り組みについて」を協議いたします。

初めに指導室長から、区の実践についてご説明した後、幼稚園の園長先生、小学校・中学校の校長先生から、取組等を紹介していただきます。その後、教育委員の皆様からご意見を伺い、協議を進めてまいります。

それでは初めに、事務局から説明をお願いいたします。

指導室長

それでは、「体力向上の取り組みについて」ご説明をさせていただきます。

まず、子どもたちの体力の現状についてでございます。中野区が実施している体力に関する調査結果をもとに、課題や傾向を整理してございます。

成果といたしましては、都平均を１％以上、上回った項目が増え、反対に１％以上、下回った項目が大幅に減少してございます。

課題といたしましては、例年同様、持久力・投力等の都の平均を下回る項目があること、また、小学生の運動時間の減少、朝食欠食や睡眠不足などの生活習慣に、学年進行に伴って課題が見られるようになることでございます。

次のスライドをごらんください。

これまでの体力向上に向けた取組についてご説明をいたします。まず、体力調査につきましては、個人及び集団の体力水準や傾向を把握すること及びその結果をもとに、子どもの体力や課題を理解し、体力向上の取組が実践できる力を育てることを目的として取り組

んできました。

次のスライドをごらんください。

この体力テストでは、小・中学校の全児童・生徒を対象に実施してございます。握力や 50 m 走、シャトルランなど、体力の 8 要素を測定しています。

また、運動習慣や生活習慣についての質問紙調査も行い、総合的に実態を把握してございます。

次のスライドをごらんください。

これまでの取組では一定の成果が見られました。区独自で設定をした「中野スタンダード」という体力の指標が向上してきたことがわかります。

一方で、近年は伸び悩みが見られ、さらなる改善が必要であるという課題も明らかになってございます。

次のスライドをごらんください。

そこで、今年度から考え方を転換いたします。これまでの全体の数値向上から、一人ひとりの子どもの体力の伸びに着目する方向へ移行いたします。また運動だけではなく、生活習慣や心の健康も含めた総合的な取組が求められてございます。

次のスライドをごらんください。

こうした考え方をもとにして、新たなガイドライン「N a k a n o A c t i v e L i f e P r o g r a m」の取組を推進いたします。これは、全ての子どもが生涯にわたり心身ともに健やかに成長し、一人ひとりに合った豊かな生活を実現することを目指すものでございます。その基盤づくりが今回の取組の柱となります。

次のスライドをごらんください。

一つ目の改善は、体育授業の充実です。「運動をする・みる・支える・知る」という多様な関わり方を通し、運動への理解と関心を高めます。授業と環境の両面から改善を図ってまいります。

次のスライドをごらんください。

二つ目は、生活習慣の確立です。養護教諭や栄養教諭と連携し、睡眠や食事などの基本的な生活習慣の改善を進めます。健康の土台づくりを重視した取組でございます。

次のスライドをごらんください。

三つ目は、心と体の教育です。相談体制を充実させ、子どもたちが安心して学校生活を送れる環境を整えます。また、多様な専門職と連携をし、支援の幅を広げるとともに、子ども

たちが自己の心のありようを学ぶ、そういった学習も推進していきたいと考えてございます。

次のスライドをごらんください。

四つ目は、外部との連携でございます。専門家やアスリートとの関わりを通し、運動の楽しさや正しい知識を学びます。これにより運動の習慣化を促進いたします。

次のスライドをごらんください。

最後でございますが、今後は「Nakano Active Life Program」を関係者全体で共有し、取組を進めてまいります。子どもたちが生涯にわたり運動に親しみ、豊かなスポーツライフを実現できるよう、取組をさらに充実させていきます。

ご清聴ありがとうございました。

田代教育長

続きまして、かみさぎ幼稚園の小池園長先生からお話を伺います。

かみさぎ幼稚園長

かみさぎ幼稚園園長の小池でございます。よろしくお願いいたします。

かみさぎ幼稚園からは、「運動遊びの環境と指導の工夫」ということで、お話をさせていただきます。

「環境」の文字が赤字になっているのは、幼稚園教育におきましては、環境を通した教育ということで、この「環境」という言葉に大きな意味を持たせている、そう考えております。

まず、幼稚園での課題となる幼児の姿について、共有をしました。まず、体幹や体の動かし方については、とても個人差が大きいです。特に、運動に消極的な幼児は、失敗したくないですとか、失敗しても、どのように乗り越えていいかわからないという様子が見受けられます。そのような姿がありました。

それを受けまして、私たち教師のほうでは、まず体を動かす遊びを通して、運動する楽しさを感じてほしい。それから心の部分ですね。たくましさや、諦めない心を育んでいきたい。それから、健康に気をつけて生活をして、元気な体をつくれるようにしていきたいということで、子どもたちの生活を総合的に捉えて、考えているところです。

そこで、かみさぎ幼稚園では、今年度の園内研究のテーマを「あきらめないでやってみよう 心と体を弾ませて～運動遊びの環境と指導の工夫～」と定めまして、園全体で園内研究として取り組んでいくことにしました。

大きくは2本の柱がございます。まず、「年齢・発達に応じた運動遊びの環境」です。それからもう一つ、「パワーアップタイム」という柱を立てました。具体的にお話をいたします。

まず、「年齢・発達に応じた運動遊びの環境」ということです。子どもたちの実態、それから興味・関心を捉えまして、自分から意欲的に取り組みたくなるような遊びの環境の工夫を図って実践をしていきます。

それから、その実践を通して、それを事例として検討を進め、幼児が経験したことや、「心と体を弾ませる姿」につながった指導を話し合い、その環境構成について探していきたい、私たちの学びにしていきたいと考えています。

具体的な写真を通じてお話をします。

まず、3歳児の姿です。例えば、ボールに親しめるように、「投げる」というところに着目をしています。投げるという動きがなかなか難しい、経験が少ないということは、教育委員会のお話の中にも、投力ということでありましたが、幼児からその姿が見受けられます。

例えば、ボールを投げたくなるような遊びの場をつくっています。フープを下げて、「入った！」ということがわかるような、それから、もう一つの右側の写真は、鈴がつけてあって、当たると鈴の音がするというので、繰り返し投げる姿が引き出されます。

次は4歳児です。これもフープを使った投げる場をつくってみました。こいのぼり飛ばしというのは、紙コップと傘袋をつなげて、こいのぼりのように見立てたものを、こいのぼりの時期に、4月の終わりから5月にかけて出しました。これを投げることで、シューツという感じの、投げる楽しさが味わえます。

それから、カラフルカタツムリは最近の環境なのですが、フープのところに粘着テープを全部貼り付けまして、それをぶら下げて、そこにビニールで包んだ軽いボールを投げるべくつくって、それが「当たった」「くっついた」ということで、繰り返しやりたくなる場になっています。

このように、自分から「面白そう」「やってみよう」と、やりたくなる環境を工夫しています。

次は5歳児です。5歳児も「投げる」というところに着目をして、ストラックアウトの場をつくってみました。そして、的に当たると、的が倒れて、ひもを引っ張ると、またすぐに自分で戻せるというような仕掛けになっておりまして、繰り返し取り組むことができます。

それから、忍者のイメージで楽しんでいまして、先生が「忍者からの挑戦状が届いたよ」

と日替わりで子どもたちの興味を引き出し、動きを引き出すようなことを環境として取り入れています。それが運動遊びの環境の工夫の紹介です。

そしてもう1点、「パワーアップタイム」ということをやっております。名前をつけて、毎日のようにその時間をとるということですね。体を動かして遊ぶ機会を取り入れて、習慣づけていきたいなと思います。

そして、幼稚園で意識をして取り組んでいることを、保護者に積極的に発信していきたい。それで、幼稚園で、子どもたちがどんなことをして運動遊びを経験しているかを理解し、家庭での過ごし方、親子で運動遊びを楽しむ習慣につなげられるようにしたいと考えています。

例えば、パワーアップタイムの3歳児の姿です。へびさんに変身、くまさんに変身などイメージでなり切って、いろいろな動きを楽しんでいます。

それから、遊具を使った挑戦できる場です。これもいろいろなタイプのものを用意することで、自分で「これをやってみよう」と、主体的に選んで挑戦する、何度でも繰り返し挑戦する、そんなことができる場を学級全体で設けています。

4歳児の姿です。これはボールを使った遊び。投げるだけではなくて、ボールと仲良くなろうということで、転がしてみたり、体の周りで1周させてみたり、いろいろな動きをやってみたりしています。それから、「大根抜き」と言っているのですが、「ふんばる」という経験で、友だちと、グッと引っ張られても抜けないように力を込めるみたいなことの動きの経験の時間を学級で楽しんでみました。

5歳児の姿です。忍者のイメージで楽しんでいますので、忍者走り修行ということで、巧緻性や敏捷性を養うようなことを取り入れました。それから集団ゲーム、しっぽ取りというロープを取り合うゲームがありますが、そういうことで、まずは自分のめあてをもって、1本取れた、2本取れたというようなところから、チームでの本数、何本対何本でこちらのチームの勝ちというような勝敗へつなげていく。このようなことを段階的に経験できるように、パワーアップタイムで取り入れております。

幼児期には、幼児期に身に付けたい36の基本動作というものがございまして、「立つ」とか、「座る」とか、そういう基本的な動作がいろいろと示されている、幼児期運動指針ガイドブックというものがございます。先日、園内研究で講師の先生にご指導いただいたときに、これをまた改めて、私たちも見直したところがありました。

運動というのはスポーツだけではなくて、日常生活の中でいろいろな動きを含めて考え

ると、例えば砂場遊びであっても、つくりたいもののために道具を運ぶとか、そういうことも体を動かすことには捉えられるかなと思います。

それから中野区のほうでも、今日のスライドにはないのですが、運動遊びプログラムという、以前つくったものも参考にしながら、子どもたちのいろいろな体を動かす楽しさを味わえるようにしていきたいと考えて、取り組んでおります。

幼稚園は遊びを通した教育です。遊びの中でいろいろな動きができるよう、バランスよく取り組み、体を動かすことが大好きな幼児を育てたい。そのことが土台となって、小学校以降の教育につながっていくかなと考えております。

以上で、かみさぎ幼稚園の実践の紹介を終わらせていただきます。ありがとうございました。

田代教育長

小池園長先生、ありがとうございました。

続きまして、上鷺宮小学校の原田校長先生からお話を伺います。

上鷺宮小学校長

皆さま、こんにちは。上鷺宮小学校校長の原田久美でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、本校が取り組んでいる取組についてご報告させていただきます。

私たちは、単に運動ができる子を増やすのではなく、保・幼・小・中を1本の線でつなぎながら、生涯にわたって運動に親しむ心を育むアプローチを進めております。

次のスライドです。

まず、成果をデータでごらんください。令和7年度の体力テストにおいて、全国平均を上回った項目の割合が、前年度の10%から20%へと倍増いたしました。特に、投力、握力、敏捷性の項目で著しい改善が見られました。

この結果を支えたのが、年間を通じて効果的に配置されている「ヒートアップ期間」と、外部講師、環境整備の相乗効果であると考えています。

これより、その具体的な取組を紹介いたします。

次のスライドです。

一つ目は、外部の専門講師を招聘した、かけっこ教室になります。運動の基本動作が最も発達するゴールデンエイジを挟む2年生・5年生を対象とし、正しい走り方のフォームをダイレクトに学びました。正しいフォームを知ることで、多くの子どもたちが自己ベスト

を更新しました。この「走るのが楽しい」という成功体験が、子どもたちの心に自信を育みました。

次になります。

二つ目は、全校で取り組む運動会です。私たちは、本番の結果だけではなく、日々の練習の過程、プロセスを極めて重視しています。仲間と支え合い、互いをたたえ合う中で、子どもたちの自己肯定感や自己有用感が高まります。この心理的な安定とレジリエンスの向上が、日々の前向きな生活態度へと還流していくと考えています。

次のスライドです。

三つ目は、様々なヒートアップの取組です。4月、9月は短縄ヒートアップ期間を設けています。6月はルール理解や体験を通して、思考をする体の動きへとつなぎます。こちらのスライドは、4月、縄跳びカードを活用し、昨日の自分を越えるという、持続的な挑戦環境をつくりました。毎朝の全身運動は、敏捷性を養うだけではなく、脳の活性化にも直結しています。

次のスライドです。

6月に体力テストが行われます。体力テストは、独特なルールのもと、計測が行われます。自己の能力を十分に発揮できるように、ルールの確認や、似た動きを体験します。改めて、自分の得意や目標を思考しながら体の動きをかみしめる時間としています。

次です。

9月には、各自が休み時間などで、継続して行ってきた短縄を、改めて全校の取組として行います。自分の成長や新たな課題に気づき、考え、挑戦します。

次のスライドです。

寒い季節の持久走は、寒さに負けない体づくりと、継続した時間、走り切ることへの気持ちの強さや、自分に合った走り方やペースなど、運動を調整する力に結び付きます。

次のスライドになります。

四つ目は、多様な運動体験を日常化する環境づくりです。特定のスポーツに偏らないよう、PTAからご寄贈いただいたスポンジボールや、区取組のハッピーマニフェストにより、児童の声から購入したドッジビーなど、豊富にそろえました。いつでも、どこでも、誰とでも遊びたいと思わせる環境により、中休みや昼休みには学年を越えた交流が生まれています。上級生のアクティブな動きに下級生が憧れ、自然と体を動かす運動のサイクルが校庭の日常となっています。

水泳指導のスライドになります。現在、夏の季節に、年間 10 時間程度、水泳指導を行っています。プールでは、浮力を生かした自由な身のこなしや、個々の課題に合わせた泳力向上に努めています。それと同時に、命を守るための着衣泳を徹底することで、事故を未然に防ぐ実践的な危機管理能力と、水に慣れ親しむ安心感を両立させるようにしています。

最後になりますが、上鷺宮小学校の 6 年間は、生涯にわたる運動習慣の基盤をつくるための中継点だと捉えています。幼児期の遊びを通じた体の土台づくりを受け継ぎながら、小学校の 6 年間で多くの運動に触れて、その楽しさを体で覚える。そして、その自信を胸に、中学校での部活動や、自発的な運動習慣へとバトンを確実につないでまいりたいと思っています。

保・幼・小・中のシームレスな連携を軸に、地域・保護者とともに、たくましく挑戦し続ける児童を育てていきたいと考えております。

ご清聴ありがとうございました。

田代教育長

原田校長先生、ありがとうございました。

続きまして、北中野中学校の尾石校長先生からお話を伺います。

北中野中学校長

北中野中学校校長の尾石です。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

まず、本校での中学校段階における体力向上の取組ということで、説明をさせていただきます。

先ほどから、幼稚園・小学校のご説明がありましたけれども、この地域は、15 年間の義務教育期間を、連携して行っている地域です。中学校区をまとめる者としてとてもすばらしい地域だなと思っています。

そんな中で、本校、北中野中学校でどんな取組をしているかというのをご紹介させていただきます。

まず、これが本校の学校経営計画です。保・幼・小・中連携をしている中で、特にこの体力向上にて様々繰り広げている内容を紹介させていただきます。

まず、中学校の中で一番大事だと思っているのは、生徒が主体的に自身の体力と健康課題を理解して、運動を自主的に選択する力を養うということだと思っています。今、発表にありました幼稚園での遊びを通じての基礎体力の向上、そして小学校での習慣化を受けまして、中学校でそういった自分の体の使い方を客観的に見て、そして今後社会に出て、地

域と連携をして、健康な体を維持して生活をしていくというような意識も高めていけたらとよいと思っております。

中学生の現状と課題ですが、運動を行う習慣の二極化が進んでいると考えます。運動をする子としない子が少しはっきり分かれてきている世代になっているかなということも感じております。

特に、先ほどから区のほうでも課題となっていましたけれども、体力テストを通じて測ってみると、投力、それから持久力に関して、中学校期に少し二極化する傾向があると考えております。

また、思春期の心身の変化によって、体を動かすことを避けるといった傾向も見られるかなと思っております。また、けがやトレーニング、そういったものに関しての知識が不足していることで、もちろん体重も増えたりとか、関節をうまく使えなかったりとかいうことも含めまして、けがが一定程度あるということも感じております。

そして、主体的な体力向上ということで、生徒自身が体の状態を理解して、運動を自分で考え、選び、続ける力を育てる必要があるということを感じております。

そこで、北中野中学校での具体的な取組につきまして、ご紹介をさせていただきます。

まずは、「見える化と自己調整」ということで、体力テスト、東京ALPHAがあります。このような体力テストの記録や身体測定の結果を使って、生徒自身が自分の体力を知る。客観的に理解をして、どういったものに取り組んでいけばよいかというようなことを意識づけています。そのために、このICTのツールを使っているというのは、とても中学生には有効かと考えております。

また、「多様な運動機会の保障」ということで、体育の授業や部活動、地域クラブ、学校行事、体育祭などを通じて、全ての生徒が体を動かせる環境を整備しております。スライド左に体育祭の写真がありますが、地域の方にも見に来ていただき、とても意欲を持って取り組んでいる姿を目にすることができます。

さらに、「日常化・習慣化」ということで、昼休みに校庭や体育館を開放しまして、自由に遊ぶこと、また、レクリエーションを実施したりと、運動を日常に取り入れる工夫を行っております。また、家庭と連携して、部活動に入っていない子も、地域クラブで活動をしている子もいますので、全ての子がどのように毎日生活をしているかというのも学校が捉えて、そこも共有し、様々な活動を認め合いながら毎日の規則正しい生活ができることを見守っています。さらに、食育との連動もしまして、体づくりを行っていることがあります。

具体的な内容としまして、写真左上はレクリエーションで、これはイングリッシュキャンプに行ったときに、軽井沢で遊んでいる姿です。また、下のスライドはサッカー部が都大会で勝ったときの写真になります。こういったように、自然に子どもたちが楽しんで動ける環境をつくっています。

また、体育の授業では、基礎体力の向上と正しいフォームの習得で、安全かつ効果的な運動能力を育成することを目指しています。また、休み時間の遊びや生徒の主体的なレクリエーションも推奨しています。また、正しいフォームということに関しましては、これまで幼稚園や小学校で培ってきた力をさらに伸ばすために、体育の授業だけでなく、部活動や地域クラブでも、正しいフォームや正しい技術の習得をめざすということを確認しています。

特に、投力と持久力という課題がありましたので、私もハンドボールという競技を専門にやっていたので、投げることに关しては、体育科の教員と専門的・具体的にフォームの確認をしています。例えば、用具など環境によって体の動かし方が変わるという具体的なことも考えながら、現在も授業に取り組んでおります。

また、「部活動、地域クラブ等の工夫」ということで、段階的にけがを防止しながら、成長期に合わせた、体に配慮した活動をめざしています。

さらに、主体的に生徒が学校の行事に参加するということで、先日も体育祭を行いました。運動が苦手な生徒も参加できるように、先ほど教育委員会のほうからのご説明がありましたけれども、「する」だけではなくて、「みる・支える・知る」といった多様な関わり方を大切にして、応援することや行事を運営することなど、様々な視点で中学生は意識を高めて、この活動を行うようにしています。

まとめになりますけれども、発達の連続性をこの15年間の蓄積とともに、中学校区では自立と選択というテーマをもとに、自己管理し、生涯スポーツ的なことを意識しながら生活ができればなと思っています。

「情報共有の重要性」ということで、今日こういった機会をいただいたことも含めまして、幼稚園や小学校と、体力テストなどの結果も共有をさせていただき、中学校での指導に生かしていきたいと思っています。

また、合同の研修、授業公開も、この保・幼・小・中連携で行っていますので、実際に幼稚園や小学校での活動を見ながら、中学校でどんな授業を進めていくかということを推進していきたいと思っています。

また最後に、地域連携と継続的な推進ということで、保・幼・小・中、教育委員会や地域と連携をして、発達の連続性を重視しながら、健康な生活基盤づくりを目指して、生涯スポーツへつなげていきたいと思っています。

この写真は、本校の教員が、区で行っている中野ランニングフェスタに積極的に参加した写真になります。教員も、自ら生涯スポーツを行っているということを生徒にも見せています。残念ながら小学校には惨敗だったのですが、楽しく大人も取り組んでいるという姿が伝えられたかなと思っています。

以上になります。

田代教育長

尾石校長先生、ありがとうございました。

ただいま事務局、幼稚園、小学校、中学校と続けて説明をしていただきました。

ここで、ただいまの説明や協議テーマに関しまして、教育委員の皆様から質問や感想なども含めて、ご意見を伺いたいと思います。

伊藤委員

たくさんのすばらしいご実践をご紹介いただきまして、誠にありがとうございます。幾つか感じたことをお話しさせていただきます。

一つは、健康教育の必要性はますます重要になっていると思うのですね。寿命も長くなっていますし、いろいろな環境の変化の中で、気候の変動もありますし、自分の健康を守っていくということで、健康教育は非常に重要だと考えております。

そのときに、今日は体力というキーワードで全体をおまとめいただいたのですが、心と体は、今、脳科学とかでも非常に言われているように、本当に一体となっておりますので、ぜひ、心の部分の健康教育、あるいは体をつくりながら、その中で心もうまくマネジメントしていけるような、そういった方向性も探っていただけるとよいのかなと思いました。

もう少し具体的にお話ししますと、例えば、区の発表にございました、代表的な改善点の3で、指導室長のほうからも補足いただいておりましたけれども、単に相談窓口を周知するというだけではなくて、健康教育ということを積極的に推進して、心のありようを学ぶと指導室長からも報告いただきましたが、心の教室相談員、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、養護教諭、いろいろな心の専門家に関連する職種の方もおられますので、いろいろな形で子どもたちの発達レベルに合わせて、自分の気持ちを捉えて、適切に表現するですとか、どんなことが心と体のつながりとして日常的にあるのか。スト

レスを感じたときに、子どもたちも気持ちが落ち込んだり、あるいは気持ちが弾んだり、いろいろな体験をしていると思いますので、そういったことを捉えながら、普段の生活に生かしていくような教育を、積極的に推進していただけるとありがたいなと思いました。

もう1点、同じことなのですが、同じテーマでお話しさせていただきますと、幼稚園の取組、鈴が鳴るとか、ゲームということで、子どもたちが自然に運動に取り組める環境づくり、素晴らしいと思いました。

そういう中で、諦めないというところで、心の健康教育、忍者へのメッセージがすてきななと思いましたけど、「また挑戦してね」というようなことですか、自然に挑戦したらできたというような経験そのものが、心の健康教育になっていくと思いますので、その方向も、これからも大事にしていきたいなと思いましたし、そういったことを、レジリエンスという言葉で書いていただきましたが、小学校、あるいは中学校におかれましても、何か運動と絡めながら、あるいは普段の生活と絡めながら、あえて言えば、心の健康教育、心と体は一緒ということを考えれば、全体としての健康教育と表現したほうがよいかもしれませんが、そういう全体としての健康教育につながるような、単にスポーツということでないものがあるならば、またお話をしていただけるとありがたいなと思いました。

特に、小学校・中学校のほうで、こういった取組が心の健康教育にもつながっているということがあれば、教えていただければと思いましたし、もしなくても、今後、深めていっていただけるとありがたいと思いました。

以上でございます。

指導室長

今、ご指摘いただきました心の健康教育につきましては、やはり心と体が密接に関わっているのだという指導が非常に重要でありまして、そういったところを子どもたちにも、例えばスクールカウンセラーから講義をしてもらうというような取組を、既に行っている学校もございますので、今回のガイドライン改訂を期に、教育委員会としましても、そういった教育が重要だということは改めて積極的に周知していこうと思っております。

特に、体力と気力、こういったところが密接に関わっていて、同時に減少するとか、そういった特性もあるのだというところまで、子どもたちにしっかりと理解できるような働きかけ、そして減少したときにどう対応していくべきなのかということも、子どもたちにもしっかりと教えていきたいなと考えてございます。

上鷺宮小学校長

ありがとうございます。小学校のほうでは、今のご意見を伺いまして、幾つかご報告させていただきたいと思います。

5年生全員に対して、スクールカウンセラーに関わっていただきながら、児童のちょっとしたお悩み事、あなたのことを聞きたいと思っている存在の人間がいるよと、支えている人がいるよというところも含めて、全員面談を行っています。1人、大体5分ぐらいではあるのですが、そこのところで、ちょこっとした投げかけだったり、シグナルをスクールカウンセラーが拾い上げてくれて、その5分間で何かするのではなくて、次の面談につなげる、次のSOSにつなげるというようなところで対応しています。

あと、保健、養護の健診がある際、「体が大きくなっているね」とかという確認をする際に、自分たちの体の成長とともに、心も成長していく、生活習慣も変わっていく、そういったところの保健指導というものも行っています。

あと、最近、本校におきましては、レジリエンス教育を考えるというところで、学校公開の際に、5年生・6年生を対象にした外部の講師を招聘しまして、そういった講座を開きました。それと同時に、学校公開ということもありましたので、地域の方、保護者の方に対して、4時間目を保護者対象の講座ということで公開させていただきまして、学校全体で子どもたちのレジリエンスを考えていこうといったような取組をさせていただきました。

ありがとうございます。

北中野中学校長

ありがとうございます。中学校では、先ほどの発表の中にもありましたとおり、やはり苦手意識というか、これは運動に限らないとは思いますが、ちょっと意識してしまっただけで動けなくなる。

先ほど、幼稚園の発表の中でも、聞いていて、「動けなくなるんだ」と思ったので、やはり中学校でも同じだなと思いました。心が動かなくなると、体が動かなくなるのだなということを考えて、中学校では、例えばフォームを具体的に説明して、「できるようになったね」ということを評価する。これも今、体育の授業では、教員だけではなくて、お互いに学び合って、できることもできないことも共有して、評価し合うというような活動を行っているのですが、子どもたちが「失敗してもいいんだ」とか、心が豊かになる、そんな方向になっているのかなと思っています。

また、本校でもカウンセラーによる心の健康教育も行っています。また、食育も行っています。家庭との連携もですが、給食をしっかりと食べて、たくましい体をつくって、そ

れを評価していくというか。例えば、なかなか身長が伸びずに悩んでいる子とかもいるのですけれども、やはりバランスのよい食事をとっていくということで、体力に自信がついてということで、頑張っていこうというような雰囲気をつくれるかと思っております。

かみさぎ幼稚園長

ありがとうございます。幼稚園のほうは、お話もあったように、遊びを通してなので、やりたいという気持ちをいかに引き出していくかということをお願いしていますが、全体的に、心の育ち、それから健康な体づくりというところでは、家庭との連携が本当に大事なことになるなと思います。様々な家庭の状況も伺いながら、一人ひとりの子ども、それから保護者に寄り添って、子どもたちの元気な体づくりというところで、一人ひとりの子どもや保護者を大事にした教育活動を、これからも行っていきたいと思っています。

高野委員

ご説明ありがとうございました。二つばかり質問があるのですけれども、学校や幼稚園での取組は、今ご説明していただいたとおりなのですが、運動習慣としては、放課後の外遊びも大事かと思います。もちろん各ご家庭や、特に中学生になると、なかなか外遊びは行わないと思うのですけれども、校庭の開放や、何か行っている取組があれば教えてください。

また、スマートフォンや携帯ゲーム機をかなり好んで使うお子さん、今、多いのですけれども、特に小さいお子さんですと、近視や内斜視になるというような問題もありますが、それに対する取組が何かあれば教えてください。

上鷺宮小学校長

学校だけではなく、放課後の外遊びというところになりますが、こちらのほうは、学校としても、実は頭が痛いというか、ぜひ子どもたちには外で遊んでもらいたいという気持ちですが、学校としては強くあります。

ただ、子どもたちの実態を把握していきますと、習い事で早く帰らなくてはいけないであるとか、外で遊ぶにもなかなか場所がないということで、そういった声をよく聞いています。

ただ、幸いにも、このあたりには幾つか公園があるようで、そちらのほうで遊べる子どもたちは、かなり楽しく遊んでいると伺っています。

校庭のほうの開放というところは、学校の門の設定というところでは、なかなか難しい部分がありますので、さらに充実したところの取組というのができてほしいなど、学校としても思っているところです。

あと、スマートフォンとか携帯電話についてですね。こちらのほうも、「学校のほうにスマートフォンを持ってくるいいですか」というご家庭があります。ということは、ご家庭のほうでも、十分にスマートフォンや携帯電話についての活用がされているというか、きっと利用時間がたくさんあるのだろうなと捉えています。

そういった中で、やはり健康面に対してどれだけの影響があるかというところは、保健の授業なども通して、考えてはいるところなのですが、実際はやはり、家庭との連携であったりとか、家庭でどのような取り決めを行っていくのか、そこを学校として、ご家庭にどれだけ啓発ができるかというところが、これから重点になっていくかなと、私としては考えているところです。

具体的な内容について、ここで言及することができず、申し訳ありません。

北中野中学校長

ありがとうございます。中学生は、今お話にありましたけど、やはり部活動が現在様々に変化を迎えているところでありまして、本校では、外部の地域のクラブ活動、そういったことも、学校でどんな活動をしているかということ把握し始めています。実際にどういった1日の生活を送っているかということ、担任や学校の学年の教員も把握して、規則正しい生活も含めて行われているかということを確認しています。また、競技力を向上させたい子も、やはり一定程度います。そういったニーズに合った環境があるかというところ、そこはまだ相談もあります。競技的にも様々ですが、この中野区という地域に、さらに競技力が向上するような仕組みができることが望ましいかなと思っています。

また、外遊びに関しましては、実は今、本校は考査期間前で、部活動がない期間だったのですが、本来だと勉強するはずなのですが、それでも遊びたいといって、外で遊んでいる子もいます。考査前の期間に限らず、現状とすると、小学校や中学校はそういった時期に校庭を開放できないこともありますので、思いっきりサッカーボールを蹴ったりとか、野球ボールを投げたりという環境が若干少ないことで、先日も硬いサッカーボールを地域の公園で蹴って、地域の方に怒られるというようなことがあり、謝罪に行きました。子どもは軟らかいボールなら良いということで、空気を抜いてやっていたのですが、それでも、「そういうことじゃない」ということで怒られましたので、規範意識を高めるとともに、地域にそういった遊べる環境整備が必要と捉えています。やはり小学生と中学生が一緒になると、中学生は思いきり動けないと思うので、そういった環境も整えていく必要があるかなと感じています。

またスマートフォンに関しましては、よりよく使うということで、できるだけ学校で推進をして、授業中の振り返りなども適切に活用して使っていくということを良い意味で推進をしているので、スマートフォンに関しても、そういったことで自分で調べていくという、選べる力みたいなものを育成していきたいなと思っています。また、eスポーツだとかそういった取組もありますので、中学校期になりましたら、スマートフォンも使って、そういった様々な、多様な学び方を進めていければなと思いますが、ただ、リテラシーだとか、そういったものに関しては、意識を高めさせたいなと思っています。

かみさぎ幼稚園長

幼稚園では、運動系の習い事をしている家庭は多いなということは感じています。プールや体操を選んでいる家庭が多いというような実態もあります。

スマートフォンなどについては、幼児は自分のものというわけではありませんが、本当に小さい頃から身近に接しています。幼稚園では、空き箱とかいろいろな廃材を使ってよく工作をするのですが、小さい空き箱があると、すぐにそれがスマートフォンやタブレットに見立てられて、こういう操作の動きは、本当に慣れたものです。そういうところでは、本当に小さい頃から身近なのだなと思うのですが、そこはやっぱり、家庭や保護者への発信というところで、幼児期に直接的な遊びを通した体験は本当に大事なのですよということ、それから視力や姿勢に影響するということを、しっかりと幼稚園のほうからも伝えて、意識づけをしていきたいと考えています。

岡本委員

指導室長にお伺いしたいのですが、新しいガイドラインの下で、体力、運動能力を測定するための新たな種目を検討するご予定があるかどうかについてです。

例えば、今日も何度か1,500m走の言及がありましたが、尾石先生のお話でも、持久力は二極化しているということでした。走るのが得意な子どもはよいと思うのですが、1,500m走と聞いただけで、その日は学校に行きたくなくなる子どもも、正直いるのではないかと思います。1,500m走を走ったために走るのが嫌になったということでは、生涯スポーツの土台になり得ていないと思います。そもそも、なぜ距離が1,500mなのかということも、僕は知りたいところですが。

小池園長先生のプレゼンテーションにあった幼稚園の運動は、本当に楽しそうだなと思いました。子どもが「あっ、やってみたい」と思える場を用意することはとても大事で、持久力を測定するときに、何か子どもがやってみたいと思えるような、測定するための工夫が

できないのかなということをお伺いしたいです。

尾石先生にも、もしも何かアイデアがあれば、ぜひ伺いたいです。

指導室長

まず、体力テストの項目の見直しについてなのですが、現時点で、何か変えていこうというような構想は練っていないというところでございます。

また、1,500m走が苦手なお子さん、あまり取り組みたくないというお子さんがいることを想定して、シャトルランという、別の持久力を測る種目も用意しています。しかし、それもずっと走り続ける種目ですので、それで苦手意識を払拭できるかとか、さらに取り組みたくなるかというところ難しいところです。

一つ、指標を測るためのものでありますので、走ってみて、自分の現在の状況は理解できる。そこからどう次のステップを切っていこうかというのは、自分なりに考えたり、先生のアドバイスを受けながら考えたり、そのところが重要かなと思っておりますので、現状から、次のステップをどう考えていくかという、そういう思考力を高めていくような体育の授業のあり方というのは、これからますます重要になってくるかなと考えてございます。

尾石先生、何かありましたら。

北中野中学校長

ありがとうございます。特に1,500m走という競技は、やはりみんな苦手に感じていると思います。実際に、全力疾走するのか、ちょっとランニングのように走るのかという、両輪を求められ、瞬発的なものも体力的なものも一番苦しい状況だと思います。実際には、私たちが中学校のときより1,500m走は長距離というイメージになっているのかなと思っています。

なので、中学生の授業で長距離走をやる際のモチベーションとして、先ほどの生涯スポーツではないのですが、健康な体をつくるために走ることが大事だ。だから、自分はどれぐらい走るといような授業形態で授業をしているところもあります。実際にその授業では、どれぐらい走ってもよいとして「自分が好きな距離を走りなさい」という授業で、自分で自己設定をして、その到達度を測ります。

具体的には、競技を向上する志向の子も結構多いので、だったら1,500mをマックスで走りたいなら、3,000mとか5,000m走らないと、その体力はつかないのではないかと考える子もいます。景色を観ながらゆっくり走りたい子もいます。

なので、授業において、主体的に学ぶというようなことを、長距離走というのを通して

行っていくという取組が今後深まっていけばよいと思います。なかなかうまく走れない子でも、「あの子はこんな努力をしたから、こんなに速く走れるようになった」ということなどを認め合えたりもできると思いますし、またフォームを確認して、「こうやって走ったら少しでも速くなるんだ」というアドバイスを受けて、正しく走れるようになったという例もあります。このように、測定をするとつらい単位にはなってしまうのですけれども、そのための授業形態というのは、いろいろと工夫できるかなと思っています。

以上です。

平本委員

ありがとうございました。子どもたちが体を動かすことの楽しさを、自分で発見できるような環境を工夫してくださっている例を、様々共有いただきまして、本当にありがたいなと思いました。

感想としては、幼稚園での「心と体を弾ませる」というフレーズ自体が、子どもたちがとてもワクワクする表現で、やってみたいということで、主体的に楽しむ姿をイメージしやすい、よい取組だなと思いました。

また小学校については、ヒートアップ期間の短縄の中で、「昨日の自分を超える」というようなテーマを掲げてくださって、子どもたちが昨日の自分とか、去年の自分とかを見比べながら成長を実感できるような仕組みというのを工夫してくださっているなと思いました。

次に、中学校については、主体性の育成のところを重視してくださっているということがよくわかりまして、子どもたちが自分の体力とか健康状態というのを自分で把握したり、どういう運動が今の自分にとって心地よいのかとか、どんな体の動かし方をすると成果につながるのかというのを主体的に考えて、自分たちで決めていくというプロセスを学ぶことは、とても大事だなと私は感じて、そういう環境を、学校が提供していくということの大切さを感じることができました。

質問にもつながるのですが、ちょうど私が今、子どもが中学生ということで、中学校の時期に、周りの運動ができる子どもたちとの比較で、本当は運動が好きだし、やってみたいのだけれども、どうしても気持ちが減退していってしまうような姿が見られるなという、親として悩んだりする部分もあるなと思っています。やっぱり少し、運動から離れがちになってしまう。そこで、親としてどういう声かけをしたらよいかというのは、悩む部分も、皆さんお持ちなのではないかなと思いましたので、先ほどの、レジリエンスに対する講演

も、保護者も参加できるようにしてくださっているのはとてもよいなと思いましたので、子どもたちがうまくできない自分とどう向き合うだとか、うまくできそうもないので諦めるか、挑戦してみるかという部分、ここに対するアプローチの部分は、子どもだけではなくて、ぜひご家庭も巻き込んで、いろいろ発信していただけるとありがたいなと思いました。

ご質問なのですが、誰一人取り残さない」という観点で見たときに、やはり学校に行きたくても、なかなか足が向かない子どもたち。その保護者もより深刻に、体力の向上とか、体を動かすことへの心配、悩みをお持ちなのではないかなと思っています。そういう子どもたち、ご家庭に対しても、先ほど、「する」だけではなくて、「みる・支える・知る」という多様な関わり方はあるという話もありつつ、でも、やっぱり体力を少しでもつけてほしい、体を動かす楽しさも知ってもらいたいとお考えかと思いますので、何かご家庭、子どもたちとの連携、工夫、みんなが関われるような取組を、もしなさっているのであれば、事例を知りたいなということと、もしうまくいっている事例なんかが既にあれば、ぜひ教えていただきたいなと思いました。

上鷺宮小学校長

ありがとうございます。家庭と地域も含めて、みんなで子どもたちを育てていくと、小学校としても考えています。

今、レジリエンスというところで、子どもたちは様々なところで困り感であったりとか、つまずきであったりとか、そんなときにどうしたらよいのだろうという部分の考えであったり、経験であったり、そういったものを、この小学校6年間でどれだけたくさん身につけて、社会に送り出していけるかなと、常日頃考えています。

今、学校になかなか足が向かないとおっしゃってくださったかなと。その場面に限定してお話をさせていただくと、そういった状況になったご家庭の方が何を求めるかなというところに、まず学校としては寄り添います。学校とのつながりを求めるのであれば、やはり丁寧な声かけであったり、授業を配信して、あなたのこと、忘れていないよと、学校に戻ってきて、教室に戻ってきたら、こんなことが今、行われているよといったようなところの連携を図ります。

もしお家の方が、子どもたちとのやり取り、人間関係を切らしたくないということであれば、学校で行われる特別活動的な学校行事も含めて、そういったお楽しみ会に関して、こういったものが取組であるから、来てくれたら友だちと仲よくできるかなというようなところでの情報提供もさせていただきます。それらは全て、学校からご家庭の保護者の方々

に、丁寧に細やかに連携・連絡をさせていただいた活動になるかなと思っています。

基本的には、学校に足が向かない、恐らく体を動かしてほしい、体力をつけてほしい。その前に小学校としては、まず気持ちのたくましさ。何かあったときに「僕はここにいていいんだ」「ここに行きたいんだ」というような、その心の強さ、やり抜く力と私たちは呼んでおりますが、そういう心理的な部分の、心理的な体力というのですかね。そういった部分を大切にやっていきたいかなと思っています。

不登校に関しましては、担任や生活指導の関係の教員が、かなり時間と体力・精神力をそぎながら対応しているところです。ですが、それで1人でも子どもたちが幸せになるのであれば、小学校としてこれ以上にうれしいことはないかなと考えております。

北中野中学校長

ありがとうございます。運動が苦手な子に関しましては、先ほどと重なるかもしれないのですが、誰からか認められることで、どこかでつながっていくのではないかなと思っています。

例えば、体育祭で転んでしまった子がいて、一生そこがトラウマになったりとかいうこともあるかとは思いますが、そのときに「最後まで一生懸命走り抜いてゴールしたよね」ということを一言、言ってくれる周りの友だちや大人、先生がいることで、頑張っ

て進み続けようという気持ちになっているのではないかなと思います。また、競い合ったときにチーム内で団結力が生まれることもあるかと思うので、その団結力ということも大切にして、学校では、お互いを応援するという声かけを意識して行っていきたいかなと思っています。そして戦った相手とも称え合い学校としての団結力も高めていきたいと思っています。ご家庭にも、そういった認めるということに関して、学校でも家庭でもみんなで同じことを言っていきましょうというようなことを、共有できたらと思っています。

不登校の生徒に関しましては、様々な教科の内容もそうなのですが、私たちが働きかけて、何を感じ取ってくれるかわからないと思うのですが、やはり伝え続けることが大事かなと思っています。今、体を動かさなくても、将来、健康な体が大事だなと何か気づくと思うので、そんなときに、「そういえばこういうことを言っていたな」ということになるような、そういった働きかけができればかなと思います。それこそeスポーツだとか、VRだとか、いろいろな体の動かし方もあるとは思いますが、そんなことも含めて、伝えられる機会が増やせればよいかなと思っています。

指導室長

不登校のお子さんの体力の向上、それから健康面のところですけども、フリーステップルームのほうでは、定期的に、毎週この時間、お隣の中野東中学校のスペースを借りて、体を動かしますとか、公園に行って体を動かしますということを、プログラムの中にしっかり組み込んで、取り組んでいるところです。

そうしてみると、先ほど申し上げたように、心と体はつながっているというところがあって、体を動かすことで、心にポジティブな影響が与えられて、その日1日、活力あるような取組ができるとか、そういうことを子どもたちにも実感させていくということが非常に重要かなと思っていますので、定期的にそういうものに取り組んで、あの日のこの時間帯は、必ずこうやって体を動かす日なのだとということを、定着させていくという取組を今しているところでございます。

そのときに、子どもたち同士のつながりというのも生まれてきて、様々なつながりを、運動を通して継続して確保していくことで、不登校のお子さんたちの体力であったり、健康面、そういったところを向上させるような取組を進めているところでございます。

田代教育長

ありがとうございました。時間の関係もありますので、ここで協議を終了したいと思います。

協議を終了するにあたり、私のほうで今日の話し合いをまとめさせていただきます。

教育委員会では、子どもたちが生涯にわたって運動に親しみ、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力の育成を図ることを目的として、「Nakano Active Life Program」を策定いたしました。

本日ご発表いただいた3校園の取組からは、幼児期における環境の工夫による運動遊びの楽しさの実感、小学校におけるヒートアップ期間の設定による運動の日常化と習慣化、そして、それらを基盤とした中学校での主体的な体力向上の取組と、発達段階に応じた中学校区での一貫した方向性等、プログラムの趣旨を具体の実践として、明確に示していただいたものと受け止めております。

特に、学校・幼稚園や地域の特性を生かした環境の工夫や日常的な運動の積み重ねを通して、自ら運動に関わろうとする力を育てている点は、大変意義深いものでした。

今後は本日の発表から明らかとなった、保・幼・小・中の連携による取組が高い効果を上げている実践を区全体で共有するとともに、その知見を生かしながら、子どもたちが生涯

にわたり心身ともに健やかに成長し、それぞれの生活の中で運動に親しみ続ける力の育成に、教育委員会としても着実に取り組んでまいります。

それでは、本協議を終了いたします。

ここで、会議を一旦休憩して、傍聴者の方々からご意見などを伺いたいと思います。

それでは、会議を休憩いたします。

(午前 11 時 11 分 休憩)

(午前 11 時 19 分 一旦再開)

伊藤委員

傍聴の方のご意見の時間が少し余ったので、先ほどの協議のほうで、最後に申し上げたくて、申し上げられなかったのですが、2点ございます。

一つは、1,500m走。本当にそれが嫌だという人は多いと思います。でも考えてみたら、持久力を測るのに1,500mでなくてはいけない理由が本当にあるかどうかを考えたほうが、もしかしたらよいかもしれないということも思いました。楽しくない、やりたくないことを続けられるというところの持久力と、楽しいことが続けられるときの持久力は違うかもしれないし、ダンスとかジョギングとか、すごく人気がありますよね。

そうしますと、恐らくは違った形での持久力測定も可能かもしれないということと、もう一つは、突然、体調も整わないのに1,500mを走らなければいけないというところに、もしかしたら無理があるのかもしれないので、やはり長距離を走るときの走り方のご指導とか、そういったご指導の部分の工夫というのも、もしかしたらあるかもしれない。この部分は本当に考えていくべき中身が含まれているなと感じました。

もう1点は、今、なかなか学校に来ることの難しいお子さんの体力なのですが、一つだけお願いしたいことがございます。ご本人やご家族がそのように感じることはやむを得ないというか、自然なことだと思うのですが、学校に行けないのに、外に出てはいけないのではないとか、学校に行けないので、行事は参加を見合わせたほうがよいのではないかと感じてしまわれるようなことは比較的多いのではないかなと思います。ぜひ学校の中で、部活動ですとか、散歩ですとか、何でも外に出てみるということを、心と体が整って、もしご本人が望むようであれば、それは推奨されるべきことであるということの認識を広めていただくような方向性も、とても大事なかなと思いましたので、お時間を無理やりいただきました。

以上でございます。

(午前 11 時 22 分 再開)

田代教育長

会議を再開いたします。

本日は傍聴されている方々からも様々なご意見をいただき、ありがとうございました。

本日開催しました地域での教育委員会の狙いは、直接、地域に住んでいらっしゃる方々や、学校の方とお話をする機会を得ることでもあります。地域の現状を知るためには、やはり具体的にお話を伺うことが必要であると考えております。

本日の会議は大変に有意義なものとなりました。今後の教育行政に生かしていきたいと考えております。

それでは最後に、事務局から次回開催について報告をお願いいたします。

子ども・教育政策課長

次回の教育委員会定例会は6月26日金曜日午前10時から、区役所7階教育委員会室にて実施いたします。

なお、諸事情により急遽休会になる場合がございます。中野区ホームページにて、ご確認をお願いいたします。

田代教育長

以上で、本日の日程は全て終了いたしました。

これをもちまして、教育委員会第16回定例会を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

午前 11 時 23 分 閉会